

令和7年度 第1回丹波市総合教育会議 会議録（要約）

日時：令和7年9月25日（木）午前9時00分～午前10時00分

場所：氷上住民センター1階 実習室

出席者

|                    |       |
|--------------------|-------|
| 市長                 | 林 時彦  |
| 副市長                | 細見 正敏 |
| 教育長                | 片山 則昭 |
| 教育長職務代理者           | 吉竹 主税 |
| 教育委員               | 上羽 裕樹 |
| 教育委員               | 中川 卯衣 |
| 教育委員               | 渕上 智帆 |
| 総務部長               | 足立 勲  |
| まちづくり部長            | 谷水 仁  |
| まちづくり部文化・スポーツ課長    | 堂本 祥子 |
| 教育部長               | 山本 浩史 |
| 教育部学校教育課長          | 小森 真一 |
| 教育部学校教育課副課長        | 尾松 正章 |
| 教育部教育総務課長          | 足立 安司 |
| 教育部教育総務課副課長兼企画総務係長 | 足立 真澄 |
| 総務部次長兼総務課長         | 荒木 一  |
| 総務部総務課副課長兼総務係長     | 船越 正一 |
| 総務部総務課主事           | 山口 智也 |

傍聴者 2名

- 1 開会  
足立部長
- 2 市長挨拶  
林市長 挨拶

### 3 協議事項

「部活動の地域展開に向けて」

#### (1) 概要説明

教育部 山本次長、教育部 学校教育課 尾松副課長

#### (2) 意見交換

##### ○林市長

- ・細かな部分も想定する中で、自分自身は部活動が楽しかったと記憶しており、スポーツや文化活動等の部活動をやりたいと思う子どもたちをしっかりと受け止められる団体を作っていくことが市や教育委員会の責務であると思っている。
- ・部活動の地域移行・地域展開は指導者の確保が非常に難しい課題であり、先生の中でも大変情熱を持って指導されている方もおられるため、最初の方は先生方にも指導者としてお世話になりたいと考えている。
- ・部活動に引き続き携わりたいと思う先生がおられる場合、先生方が指導できるよう兼職兼業ができる制度を整備することも検討しているが、先生方に任せてばかりにならないようにバランスをしっかりと考え、受け皿を確保していくことが大事である。

##### ○上羽委員

- ・クラブチームとの違いを考えると先生方の負担も多くなるが、丹波市のように受け皿の確保が難しい地域では兼職兼業を進めるべきではないかと考えており、先生方の選択肢が広がる方が良いと考える。
- ・三田市でも部活動の地域移行が進んでおり、送迎が難しく部活動ができにくくなると危惧している。
- ・クラブチームのように積極的に活動したくない子どもたちも多くおり、保護者も送迎するのが難しく、子どもたちは一旦必ず家に帰らなければならない等のルールも話題になっている。
- ・丹波市は都会に比べて公共交通機関が充実しておらず、人口が減っていく中で利便性の向上がなかなか見込めなく、広範囲の丹波市を自転車のみで地域を越えて通うことは不可能であるため、このような問題点を移行期間の間にきちんと考え、やりたいけどできない子を生まないようにしていかなければならない。

○片山教育長

- ・アンケートから学校又は近くの施設であれば参加を希望する意見が多く、気軽にスポーツや文化活動ができ、活動時間が程よい長さを希望する保護者や子どもたちが多い。
- ・部活動の地域移行・地域展開を約８割の教職員も休日だけでも取り入れてほしいと希望されている。
- ・他市の状況を見ると早期に取り組み始めた自治体ほど多くの課題が出ていると聞いており、非常に難しいと痛感している。

○浏览委員

- ・丹波市内では部活動の存続が難しい学校があり、中体連の大会もクラブチームで一生懸命やっている子と楽しくやっている子が一緒に大会にしているのが現状である。
- ・今後も中体連による丹有大会等は継続して実施されるのか疑問である。

○山本教育部長

- ・日本中体連も約９種目の全国大会を無くしている。
- ・中体連は中学校の部活動顧問の教職員を中心に組織されている団体であり、部活動の地域移行が進んだ時、しばらくの間はこの組織も存続すると思われるが、組織や大会（新人戦、総体）が今後どうなるかはわからないのが現状。
- ・中体連による大会も参加要件をこれまでは部活動の引率顧問が同行しなければならなかったのが少しずつ変化している。
- ・参加要件が変わることにより県内でも問題が発生しており、現在は種目によって参加要件を変えて大会運営をされている。
- ・三田市内の中学校の剣道部は全て地域クラブに移行されており、これまで中体連で運営されていた市の総体、新人戦の運営をどうするのかという問題も起こっている。

○吉竹教育長職務代理者

- ・８月末に兵庫県の市町村教育委員会連合会、都市教育長協議会と兵庫県教育委員会との意見交換会に出席し、大きな話題になったのが部活動の地域展開のことであった。
- ・兵庫県教育委員会や文部科学省から多くの課題が示され、県からは５つの課題、文部科学省からは７つの課題が示されていた。
- ・市町の課題はこれらの課題に合わせ地域の実情に応じて変わってくる。

- ・国からは一定の大まかな方針が示されているが、詳細の方針を示されておらず、非常に難しいと県からも発言があり、最終的にできることをしっかりやっていくことが重要であると言われていた。
- ・大きな都市部と丹波地域等の市町の教育委員会や学校の状況は異なり、丹波市もスケジュール案を示していただいているが、無理することなくやっていくことが重要である。
- ・神戸市は約 2,000 の受け皿を確保されているが、丹波市は現状十分な確保ができていない。
- ・中学生の保護者のうちどの程度、部活動地域移行を認識されているか不明な部分もあり、市として丁寧な説明を行い、理解いただくことが重要である。
- ・丹波市では生徒数が減少しており、1つの中学校としてチームが編成できないことが多く、軟式野球では市内で3つのチームしかなく、市の大会で1度も勝てなくても丹有大会に出場できる状況である。
- ・楽しく部活動をしている子どもたちも多くいるため、子どもたちの気持ちを大切にできる地域移行ではないと子どもたちの心がついて来ない。
- ・中学校で多くのことを経験し、それらの経験が人生の糧になるような3年間であってほしいと強く思っている。
- ・部活動地域移行をいつまでに行うのが重要ではなく、やりたいと思う子がしっかりと部活動に打ち込める環境を整えることが1番重要である。
- ・中体連と繋がりを持ち、子どもたちの活動の場、発表の場を創出していくことも大事であると考えており、丹波市独自のスポーツ大会や文化発表会を近隣市と協議しながら実行いただければと思っている。
- ・テレビで放送されていたが、淡路島の中学校でも生徒数が減少し、各中学校の吹奏楽部の人数が少なく、中学校単独での活動ができない状況の中で淡路島各中学校が集まって練習し、万博で演奏されていた。その時の生徒の声が非常に弾んでいた。
- ・発表の場所を学校だけでは設定しにくい課題もあるため、市として子どもたちの満足感を堪能させてあげられるような場所ができれば良いと思う。

#### ○中川委員

- ・自分が中学生の頃は多くの試合に出場する等、楽しかった思い出があるが、今は人数も少なく子どもが通う学校では、試合もあまり出場しない方針で楽しく活動をされていることが多い。
- ・丹波市の方針はとても誠実で誰1人やりたい子を取り残さないような非常に良い方針であると思う。
- ・保護者アンケートには部活動が無くなるのは寂しいという項目があり、

中学生や小学校5、6年生アンケートにはその項目がなかったが、項目があれば寂しいと思う子が割と多いのではないかと思う。

- ・今の子どもたちは部活動が無ければ、他に楽しく思えることがあるため、大人たちが中学生だった頃と比較して今の子どもたちが部活動にあまり重きを置いていない場合、大人たちの中学生の頃の部活動をイメージして準備してあげなくても部活動が無ければ無いで今を楽しめるのではないかと思う。
- ・アンケートの項目で学校又は近くの施設なら参加したいというのも裏を返すと近くに無ければしなくても良いと思う子は一定数いると思う。
- ・部活動をしていないから消極的に寂しい方向を向いてしまうのではなく、無いなら無いで学校ではできないことを経験できると考えられ、あるのであれば楽しく時間を過ごせると思う。

#### ○山本教育部長

- ・部活動が無ければ、子どもたちは他の事をして楽しく過ごすと思うが、田舎は都会に比べて楽しく過ごせる場所が少なく、昔に比べて個人で楽しめるものも非常に増え、友達と何かして遊ぶことも少なく、1人でYouTubeを見て過ごすだけになる等を危惧している。
- ・現在、学校で行っている部活動を地域展開することを第1に考えているが将来的には新しいスポーツや文化活動等、様々な活動ができるように幅を広げ、子どもたちが選択して楽しめる場所を作っていきたい。
- ・大会を目指して行う部活動のみを展開していききたいとは考えていない。

#### ○中川委員

- ・今の子どもたちは圧倒的に体験不足であり、大人が体験する場所を提供し、体験を促してあげないと知らないまま大人になってしまう。
- ・子どもに体験できる場所を提供しても、子どもが選択せず、挑戦しないことも多くある。

#### ○渕上委員

- ・子どもたちが経験したことのないことに挑戦できる場が設けられると良いと思う。
- ・丹波市は都会ではなく、田舎でありどこに行けば良いのか分からなく、休日何をして過ごすのかと思うが、子どもに聞くとライフピアいちじまで友人たちと会話しており、そのような場所が憩いの場所になっている。

- ・挑戦できる機会があることも重要であるが、部活動地域移行後も何か皆で一緒にできるようになると良いと思う。

○林市長

- ・今年にライフピアいちじまを改修し、雨漏り等も改善するため、是非多くの人に利用いただきたい。

○谷水まちづくり部長

- ・各住民センターの空きスペースにホワイトボード等を設置しており、長期休み等の際に勉強する子どもを見かけているため、有効活用いただいていることを実感している。

○吉竹教育長職務代理者

- ・部活動を地域移行すると様々な経費が生じるため、県から国に対し予算措置を強く求めて欲しいと話してきた。
- ・現状、受益者負担と公費のバランスについて、国や県も決定できていない状況である。
- ・範囲が広範囲になることに伴い、保護者負担も増えることは明らかであり、これまでの学校で行ってきた部活動、地域移行後の場合も負担が大変であるのはわかりきっているため、市で当面の間は予算措置をいただきたい。後に国と県、市町の負担割合が示されると思う。

○林市長

- ・指導者や施設は市がしっかり支援していかなければならないと考えている。
- ・生徒個人がそのクラブ活動に通うことは大きな負担になると考えており、非常に難しい問題である。
- ・両親が共働きされる家庭が多く、その時間に送迎できる家庭ばかりではない。
- ・試行錯誤しながらやるしかないと思っている。

○吉竹教育長職務代理者

- ・家の都合でやりたいことができる子とできない子が出てくるのは少し考えていかなければならないため、移行後のチーム配置等も考える必要がある。

○細見副市長

- ・ 来年 9 月から休日の部活地域展開ができない場合も部活動は行わないと認識していたが、地域展開又は地域連携により共有事業を終了するとあり、地域連携とはどのような意味合いなのか。
- ・ 地域展開については教育委員会だけでなく市長部局の文化・スポーツ課や生涯学習担当部署も共に取り組んでいく必要がある。
- ・ 来年 9 月以降に先生は部活動の指導を全くされないのか。

○山本教育部長

- ・ 地域の人が立ち上げたクラブチームで活動を行うのを地域展開としており、地域の人々の力を借りて学校部活動を継続する考え方を地域連携としている。
- ・ 来年の秋以降は希望しない教職員は部活動の指導を行わないが、学校部活動の形で地域の人に休日指導いただく形は暫定措置として残る。

○小森学校教育課長

- ・ 指導を希望しない教職員が指導者として関わる予定はない。

○山本教育部長

- ・ 指導を希望する教職員は受け皿として地域でそのクラブを立ち上げたこととし、携わってもらう予定である。

4 その他 なし

5 閉会  
足立部長